

1. はじめに

平成21年7月21日からの活発な梅雨前線の影響により、中四国・九州地方で大雨となり（平成21年7月中国・九州北部豪雨）、山口県内各地で大規模な土砂災害や浸水害が発生し、17名の尊い命が奪われた。家屋の損壊や浸水、道路の損傷など、住民の生活や経済活動に大きな打撃を与えた。特に山口県防府市では家屋浸水や斜面崩壊によって多くの人的被害を伴う災害に見舞われた。

今回の災害で亡くなられた方に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災地の一日も早い復旧をお祈りいたします。

土木学会水工学委員会では、防府土砂災害調査団（団長：羽田野袈裟義、山口大学教授）を結成し、現地調査団を派遣した。地盤工学委員会・斜面工学研究小委員会は水工学委員会と合同で現地調査を行った。7月31日は水工学委員会と斜面工学研究小委員会の合同で現地調査を行い、8月1日～2日の2日間は、斜面工学研究小委員会で現地調査を行った。3日間の現地調査について速報版としてまとめた。図-1.1に、8月1日～2日の2日間のルートマップ（GPSの軌跡）を示した。

斜面工学研究小委員会の参加者は以下のとおりである。

後藤聡（山梨大学）、	稲垣秀輝（環境地質）	上野将司（応用地質）
小川紀一郎（アジア航測）	櫻井正明（山地防災研究所）	佐々木寧（埼玉大学）
鈴木素之（山口大学）	中村洋介（立正大学）	西川直志（東建ジオテック）
平田文（日特建設）	以上10名	



図-1.1 現地調査のルートマップ（背景の画像：グーグル）

赤線が8月1～2日移動した動線